

## 9-1 前原市における地域公共交通活性化・再生総合事業

### 前原市地域公共交通総合連携計画の目標

九州大学の移転に伴う、市のまちづくり方針である「九州大学との連携・交流によるまちづくり」と一体となったバス交通全体の活性化、利便性向上を目標とする。そのことにより、既存路線を中心としたバス交通（7路線11系統）の存続、利用者の増加を目指す。

### 20年度事業の実施状況

#### 1. 事業の内容

##### 1) 九大線の新規実証運行

- 運行期間 : H20.4～H21.3
- 運行ルート : JR筑前前原駅～(JR波多江駅、泊、油比の3系統)  
～九州大学工学部前
- 運行本数 : 平日18便、土休日14便
- 運賃 : 200円均一
- 運行事業者 : 福岡昭和タクシー(株)

##### 2) 車両の購入



##### 3) 市民要望によるバス停の設置



### 前原市コミュニティバス協議会

前原市、行政区長会代表、老人クラブ代表、昭和自動車(株)、福岡昭和タクシー(株)、福岡市タクシー協会、バス乗務員代表、学識経験者、道路管理者、交通管理者、福岡県、九州運輸局(オブザーバー)

【事務局】前原市経営企画課内092-323-1111

##### 4) 市民意見の反映

各校区(3小学校校区・1行政区)単体に生活路線バス利用促進協議会を設置し、年に2～3回意見・要望を聞く場を設けている。そこで出た住民の意見を反映させている。



## 2. プロセス、創意工夫

■九大線の新規開設により、コミュニティバス交通網を市内全域に拡げることができた。

■バス事業者・市行政・地域3者の協力体制  
(特に地域協力)

- ・バス利用促進協議会の設置
- ・バスチケット購入協力
- ・利用者の意見取り入れ(バス停の新設等)

■マイクロバス、ジャンボタクシーを組み合わせた効率的な運行。(時間帯、用途、地域別に組み合わせ)

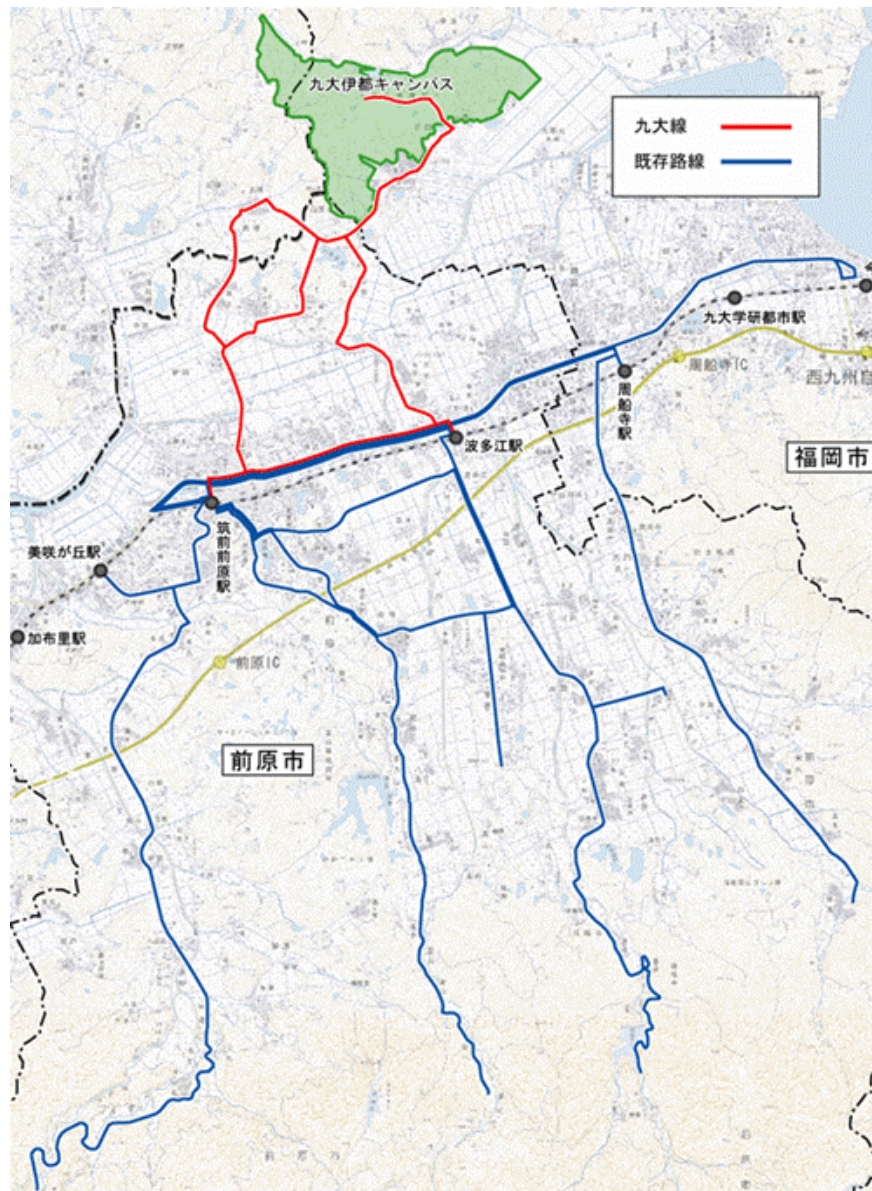
■運行車両には、一目見て前原市コミュニティバスとわかるよう、インパクトのあるデザインのラッピングを施した。

■利用促進に向けた取組み

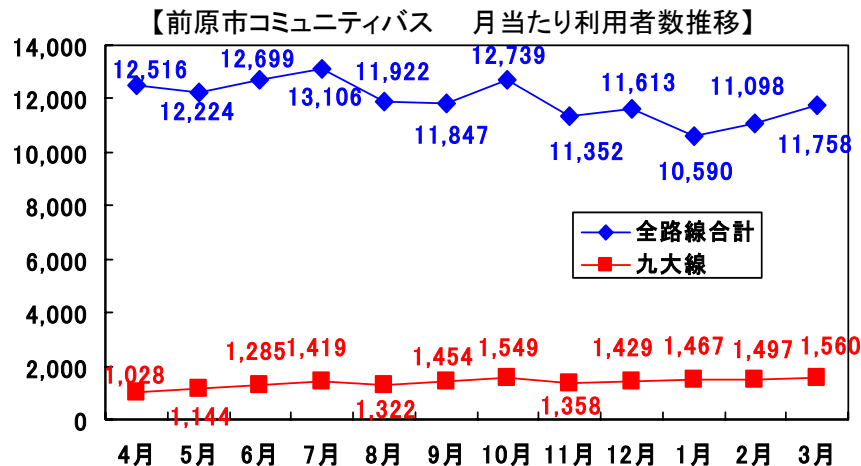
- ・広報によるPR、各校区公民館へチラシ等の配布
- ・子ども美術館バスによる園児の保護者等の利用促進
- ・各校区バス利用促進協議会への情報発信・意見収集
- ・PRを兼ねたアンケート調査

## 3. 事業費等(単位:千円)

■総事業費	68,718	●運賃収入	32,386
		●市負担金	23,217
		●総合事業費補助金	13,115



#### 4. 利用実績



#### 6. 今後の課題

- 合併に伴うバス運行地域の拡大
- 九大線利用者の増大
- 鉄道とバスの連携強化(接続状況見直し)
- ICカードの利用
- バスの愛称募集等、市民に親しまれる方策

#### 21・22年度の事業予定

- 九大線バス2台体制での運行(増便)..... 21年4月
- バス停整備(バス路線空白地帯)..... 21年度
- 鉄道とバスの連携強化(接続状況見直し)..... 21年度・22年度
- 新規バス路線検討・導入..... 21年度・22年度

#### 5. 事業実施効果

■H20年4月に発足した九大線により、市内北部の交通空白地域解消が図られた。また九大線は徐々に利用者も増加し、H21年度には教養学部も移転することから、更に利用者拡大を見込んでいる。

■各校区のバス利用促進協議会で要望のあった交通不便地域を考慮したバス停の設置を行い、便利になったとの声が多い。交通サービスにおける地域格差の是正に対する効果が見られる。また地域協力として、バスチケットの積極的購入をしてもらっており、バス路線維持の有効な手段となっている。

■マイクロバス、ジャンボタクシーを路線や時間帯別に使い分けることによって、燃料費抑制や利用状況に合わせた効率的な運行ができた。

■バスの車内に幼稚園・保育園児の絵を掲示することも美術館バスをH19年6月から実施、乗客の目を楽しませている。また、保護者が園児の絵を見るためにバスを利用し、乗客増加につながった。